



「餅の宮」と呼ばれる篠原神社(写真左上)。参道に作られた「もちのみや通り」のモニュメント(同左下)。国道8号に沿って続く西池の堤(同右)。



大篠原

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 野洲市
 ● 歩行距離 ▶ 約2km
 ● 歩行時間 ▶ 約40分

鏡餅のルーツ!? 良質のもち米が評判の産地

鏡山の麓に鎮座する大篠原神社の杜は鬱蒼としていて、一歩足を踏み入れるとそこには神聖な雰囲気がかんじられる。室町中期に建てられたという国宝の本殿は、小さいながらも彫刻などの装飾が素晴らしい。

その左脇にある境内社・篠原神社が、実は当地を守護する地主神。石凝姥命比賣命が祀られ、鏡餅発祥の地として「餅の宮」とも呼ばれている。このあたりは古くから「篠原糯」という良質のもち米の産地で、うるち米を植えてももち米になると伝えられている。篠原は東山道(のちの中山道)の宿駅として栄え、当地で作られた餅は旅人に食され、土産物としても評判だったという。

大篠原神社本殿の右奥にある「寄倍(よるべ)の池」は水深が深く、底なし沼であるともいわれている。その昔、村人が雨乞いのために二基の神輿(みこし)を池に沈め、水不足の解消を祈願すると、たちまち大量の水が湧き出し、池の水は今も枯れることがないという。



寄倍の池

米どころには、当然ながら豊富な水が必要だ。大篠原にある西池は人工の灌漑用ため池で、雄略天皇が近江に掘らせた48個の池のひとつと伝承されている。この池の堤は古い文献にも登場し、軍記物語『源平盛衰記』に記載のある「篠原堤」ではないかと、もいわれている。国道8号を

車で走れば、池の水面は見えないが、道に隣接してのびる長い堤が確認できるだろう。大篠原には、国道8号に沿って北側に旧中山道の面影が残っている。鏡餅のルーツを訪ねて、大篠原の奥深い歴史の息吹にふれてみてはいかがだろうか。

モデルコース
 大篠原バス停 10分 大篠原橋・光善寺川 5分 大篠原神社 5分 大篠原橋・光善寺川 20分 西池バス停

※移動時間はあくまでも目安です(休憩時間等含まず)。
 ※JR野洲駅から「三井アウトレット」行きバスで「大篠原」まで約7分、「村田製作所」行きバスで「大篠原」まで約15分。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!
<http://www.keibun.co.jp>

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分であらゆる歩いてみてはいかがでしょうか。

